

**地域日本語教室における
オンライン授業等に関するアンケート
～ 調査結果報告 ～**

令和3年5月10日

公益財団法人愛知県国際交流協会・日本語教育リソースボランティア

はじめに

オンライン授業の実施は30%以下 40%が実施予定なし…県内の教室…

- 新型コロナウイルスの感染拡大により地域の日本語教室は対面授業の中止を余儀なくされるなど、さまざまな影響を受けています。
- そこで令和2年9月に公益財団法人愛知県国際交流協会（AIA）・リソースルームでは、県内の日本語教室を対象にアンケートを行い、オンライン授業の実施状況などを調査しました。
- その結果、オンライン授業の実施にはハード・ソフト両面で課題が多く、コロナ禍で苦悩する日本語教室の現状が浮かび上がりました。
- 調査結果を踏まえ、AIAでは今後も地域日本語教室の活動に資する情報発信に努めていきたいと考えています。
- コロナ禍で大変厳しい中、御協力いただきました日本語教室の方々に改めてお礼申し上げますとともに、調査結果をまとめましたので、御参考にしていただければ幸いです。

調査実施概要

■ 目的

コロナ禍における地域日本語教室の現状、及び、オンライン授業に関する地域日本語教室関係者のニーズの把握等

■ 実施期間 令和2年9月

■ 調査対象

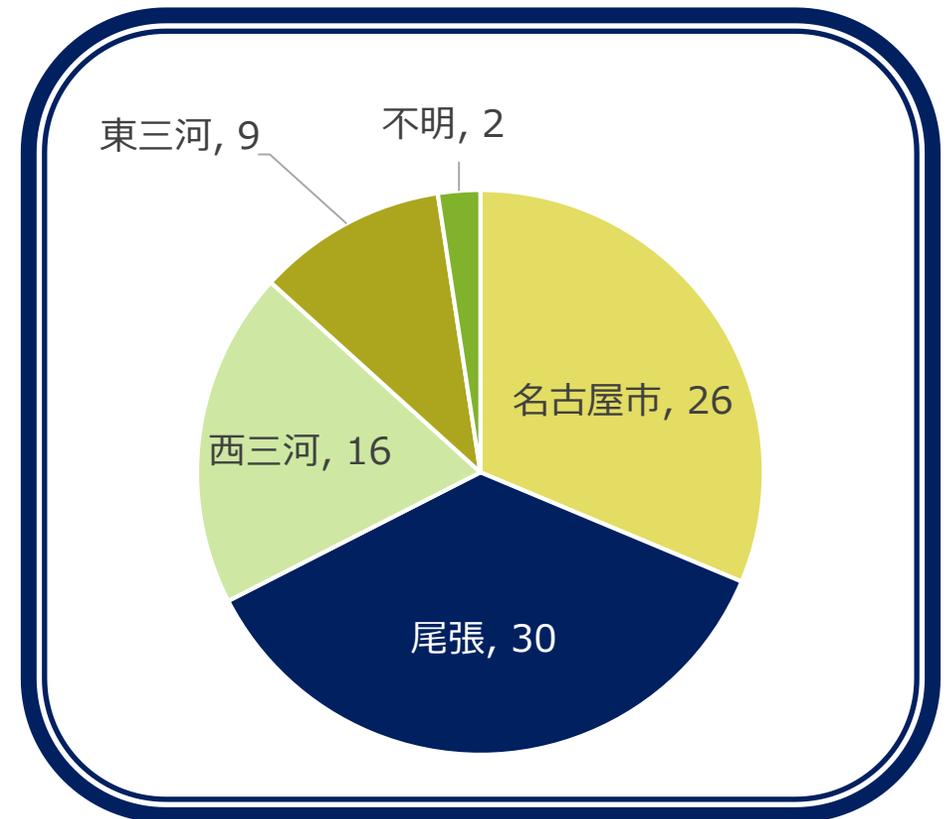
愛知県内の地域日本語教室主催団体：118

■ 回収結果：83（回収率：約70%）

■ データについて

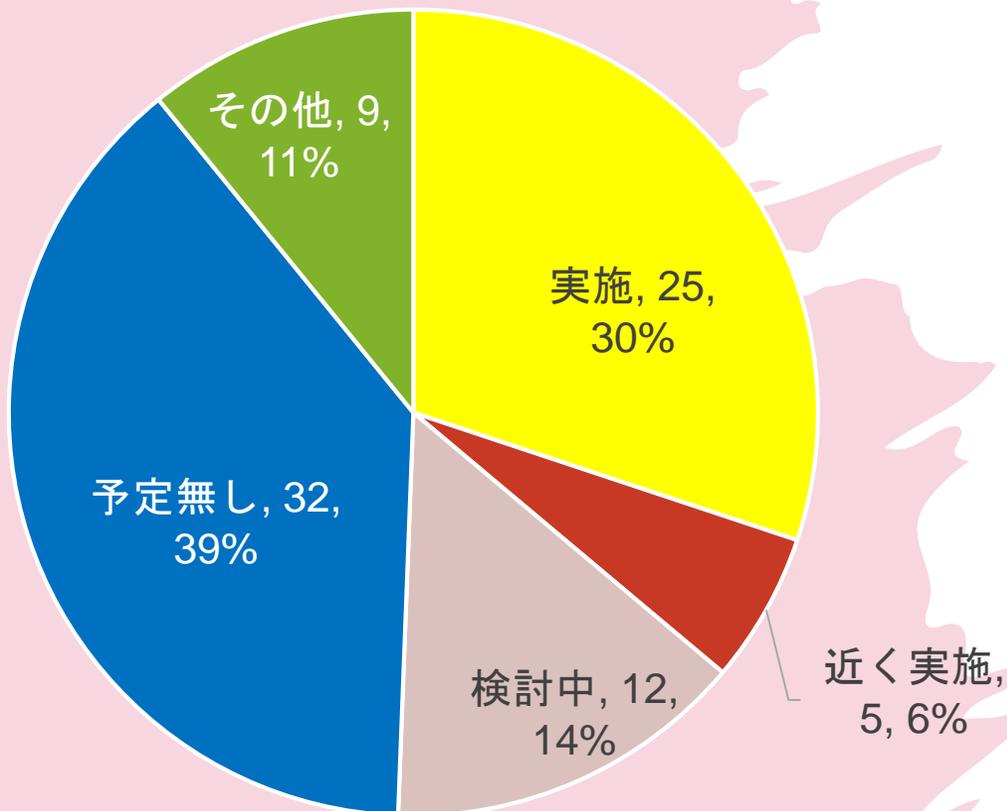
調査に当たっては、コロナ禍で厳しい状況に置かれている教室の方々の負担にならないよう厳密な基準日や数値の定義などは行いませんでした。そのため、数値につきましては、概数として御理解いただきますようお願いいたします。

回答いただいた教室の所在地

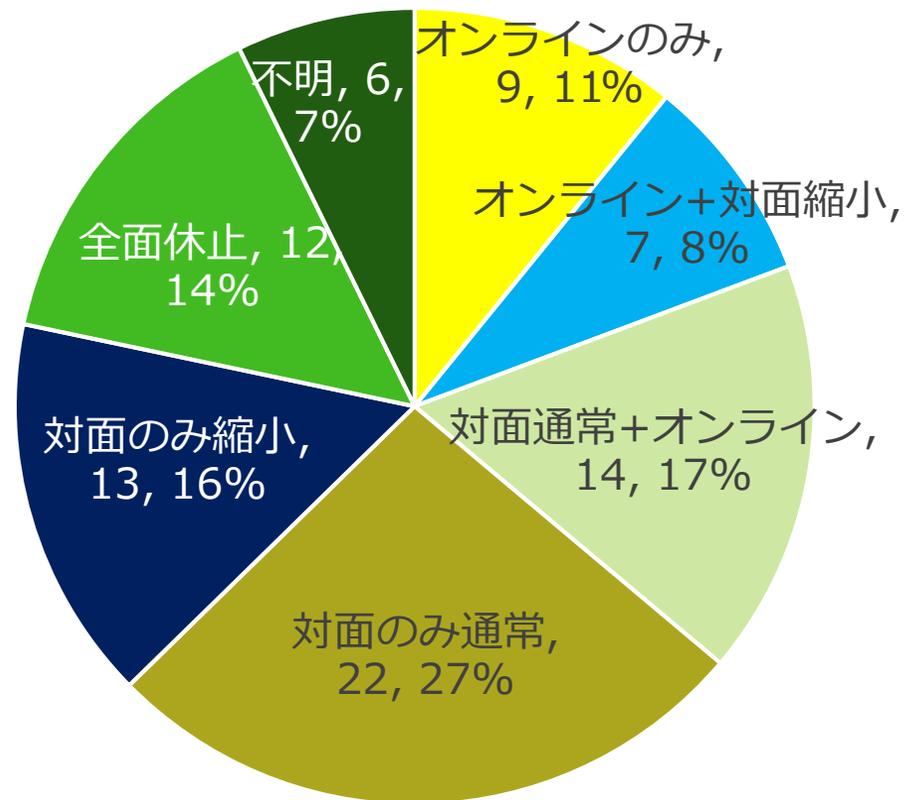


◆◆ 教室の現状 (Q1・2) ◆◆

Q1・オンライン授業の実施状況

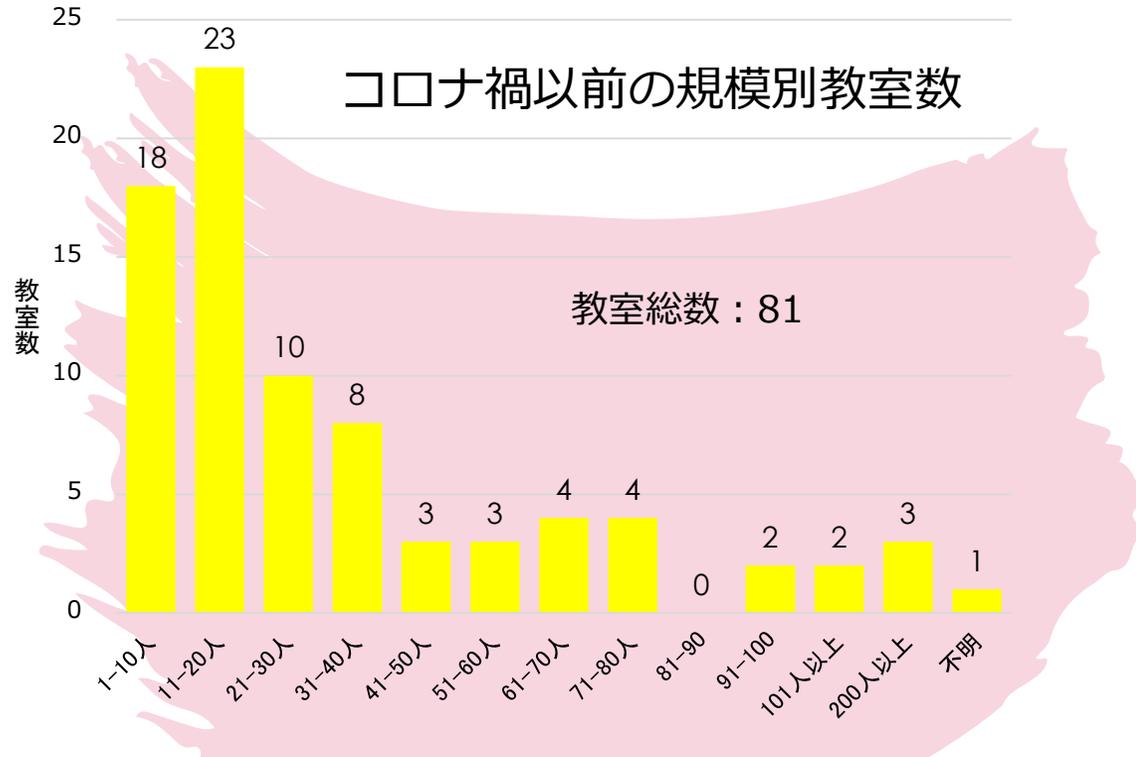


Q2・現在の教室活動の状況



- オンライン授業を「実施している」及び「近く実施」との回答は、30教室でした。
- 対面式授業とオンライン両方実施が21教室、全面休止が12教室、オンラインのみの実施が9教室となっています。

◆◆ コロナ禍以前の学習者数（Q3） ◆◆



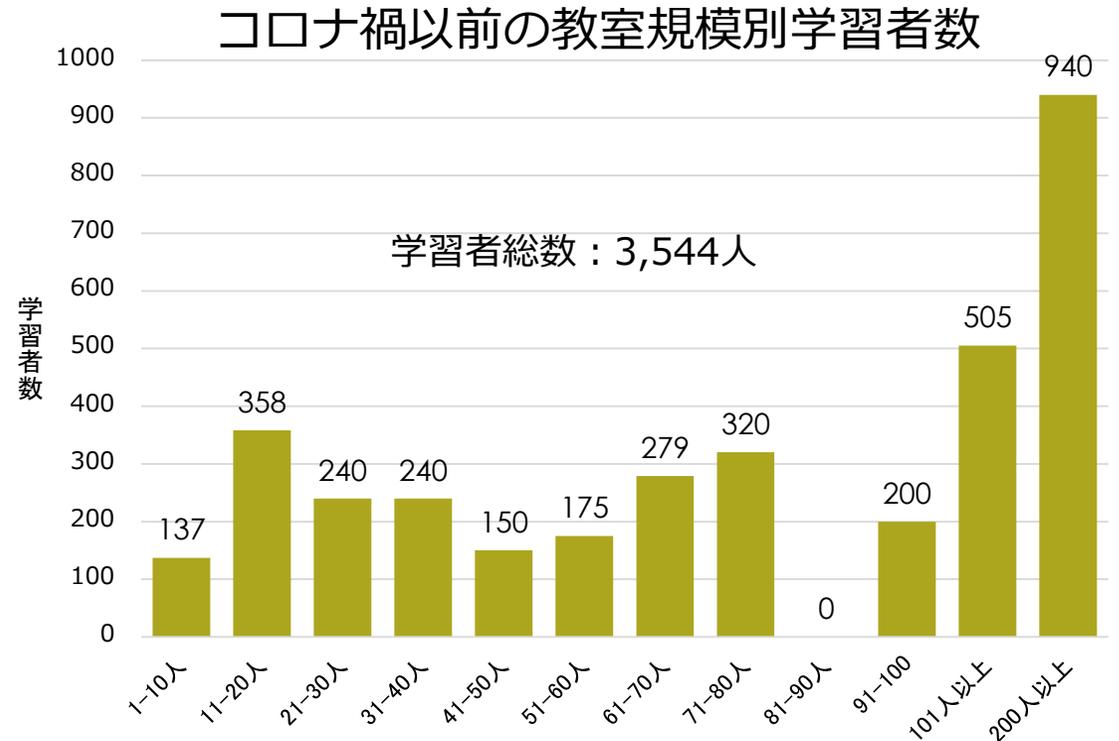
規模としては、40人以下の教室が59で、全体の約70%を占めています。200人以上の教室も3教室あります。

学習者については、100人を超える大規模教室の合計が1,445人で、全体の約40%を占めています。

他方、40人以下の教室の学習者の合計は、975人で、全体の約30%となっています。

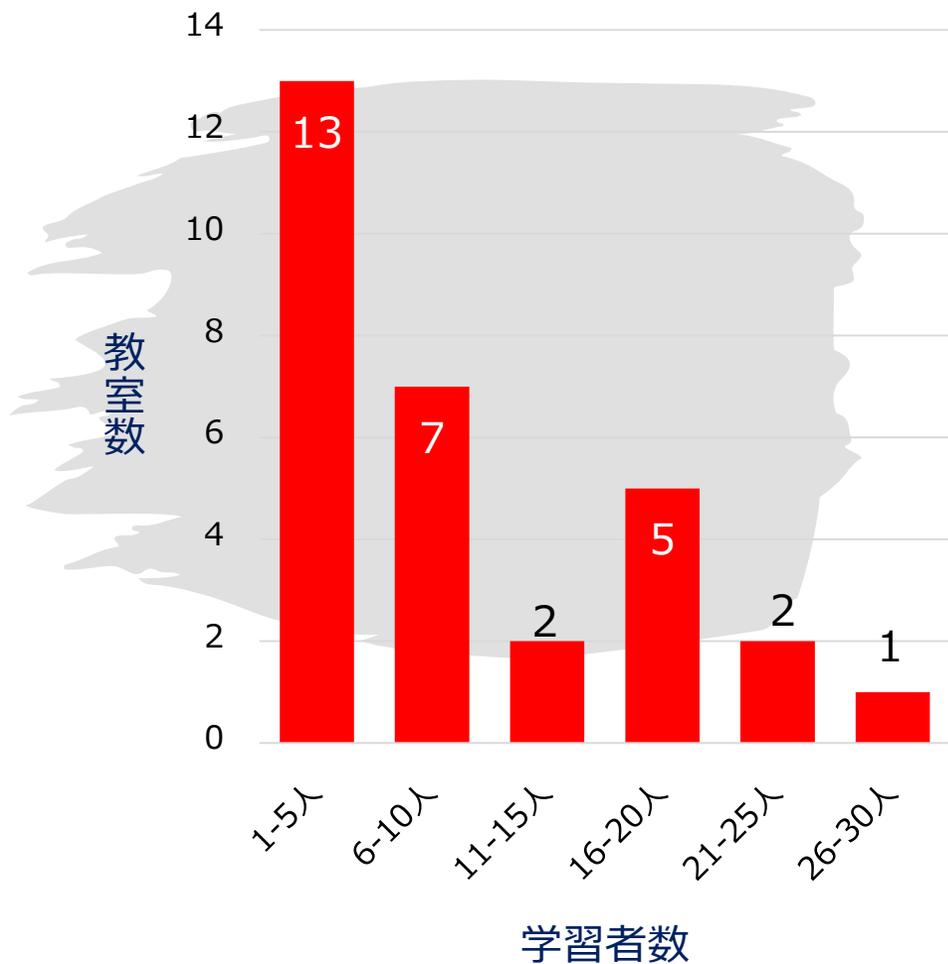
学習者の状況についての調査結果です。
教室の規模別に整理してみました。

※ 教室によって、人数の整理の仕方に違いがありますので、概数（概ねの傾向）としてご理解ください。



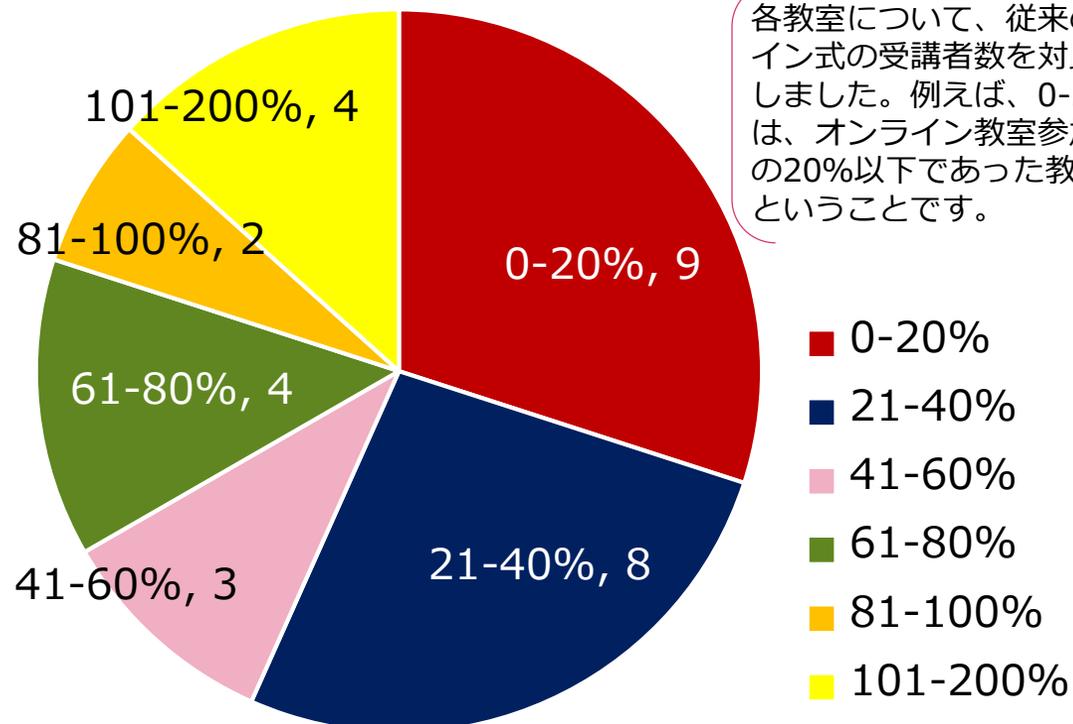
◆◆ Q4・オンライン授業を受けている学習者数 ◆◆

1 教室あたりのオンライン学習者数
(オンライン授業実施30教室中)



学習者のオンライン教室への教室別参加者比較

※ コロナ禍以前の受講者数との比較

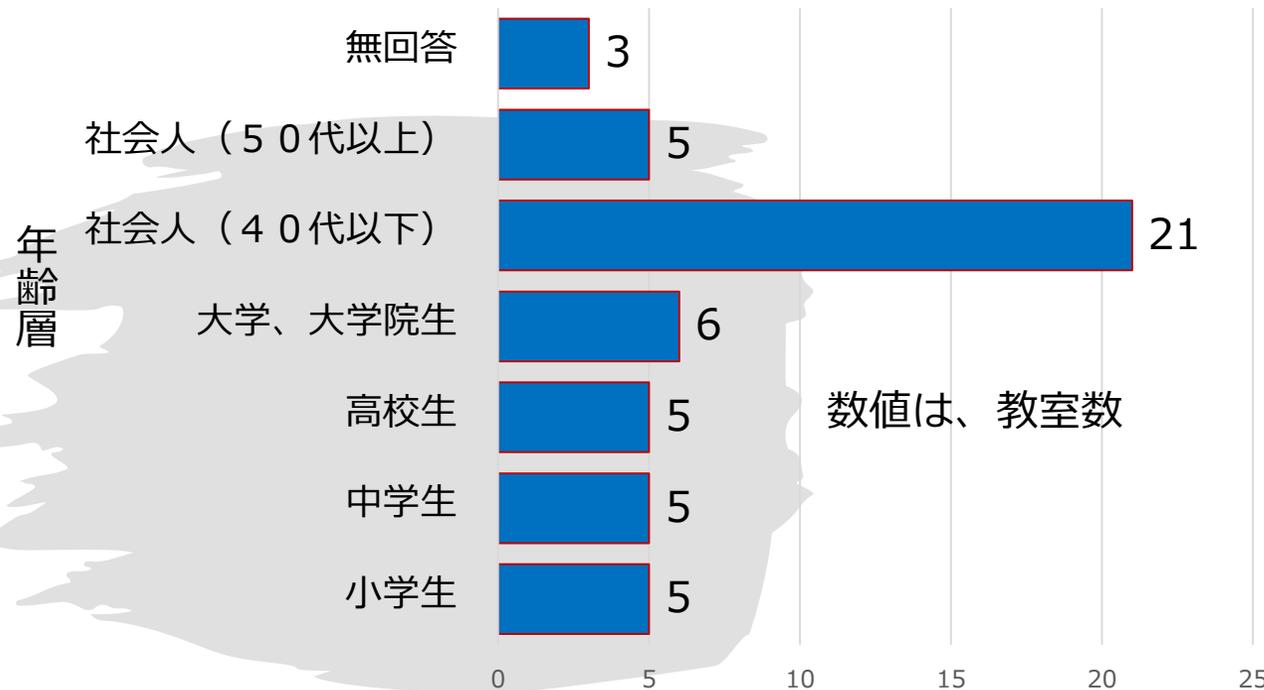


各教室について、従来の対面式とオンライン式の受講者数を対比した数値を整理しました。例えば、0-20%, 9というのは、オンライン教室参加者数は、対面式の20%以下であった教室が9であった、ということです。

- 1 教室あたり 10 人以下の教室が、3分の2を占めます。
- 多くの教室が、コロナ禍以前の対面学習者の半分以下の利用となっています。
- しかし、4 教室がオンラインにしたことで学習者が増えていることは、注目すべき点です。

◆◆ オンライン授業を受けている学習者の年齢（Q5）と授業内容（Q6） ◆◆

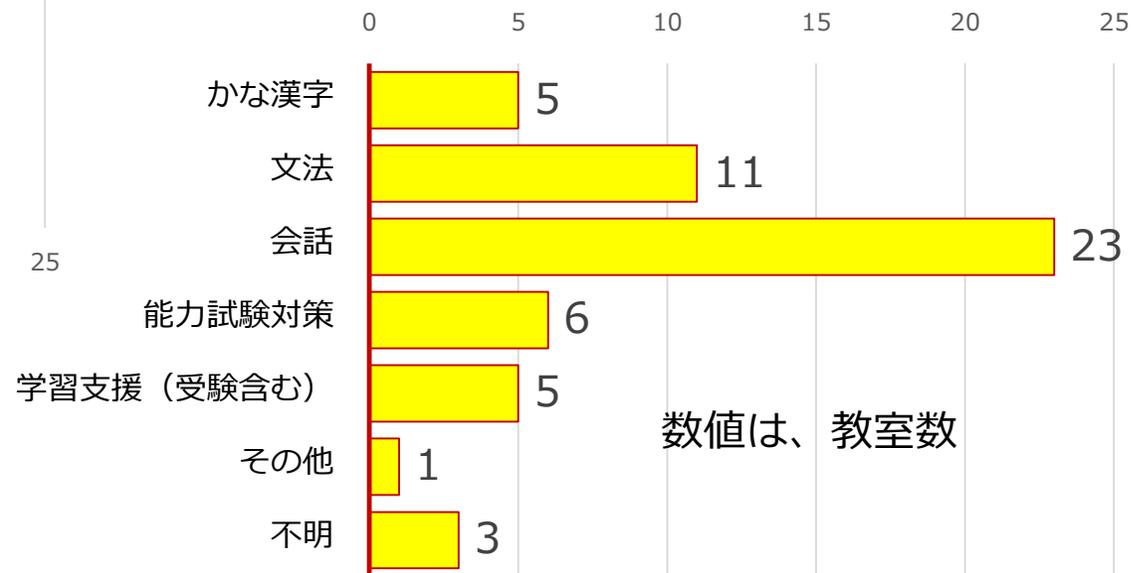
オンライン学習者の年齢内訳（Q5）



会話と文法、会話と試験対策、など2つ以上の内容で進めている教室が多くあります。数字は延べ数。

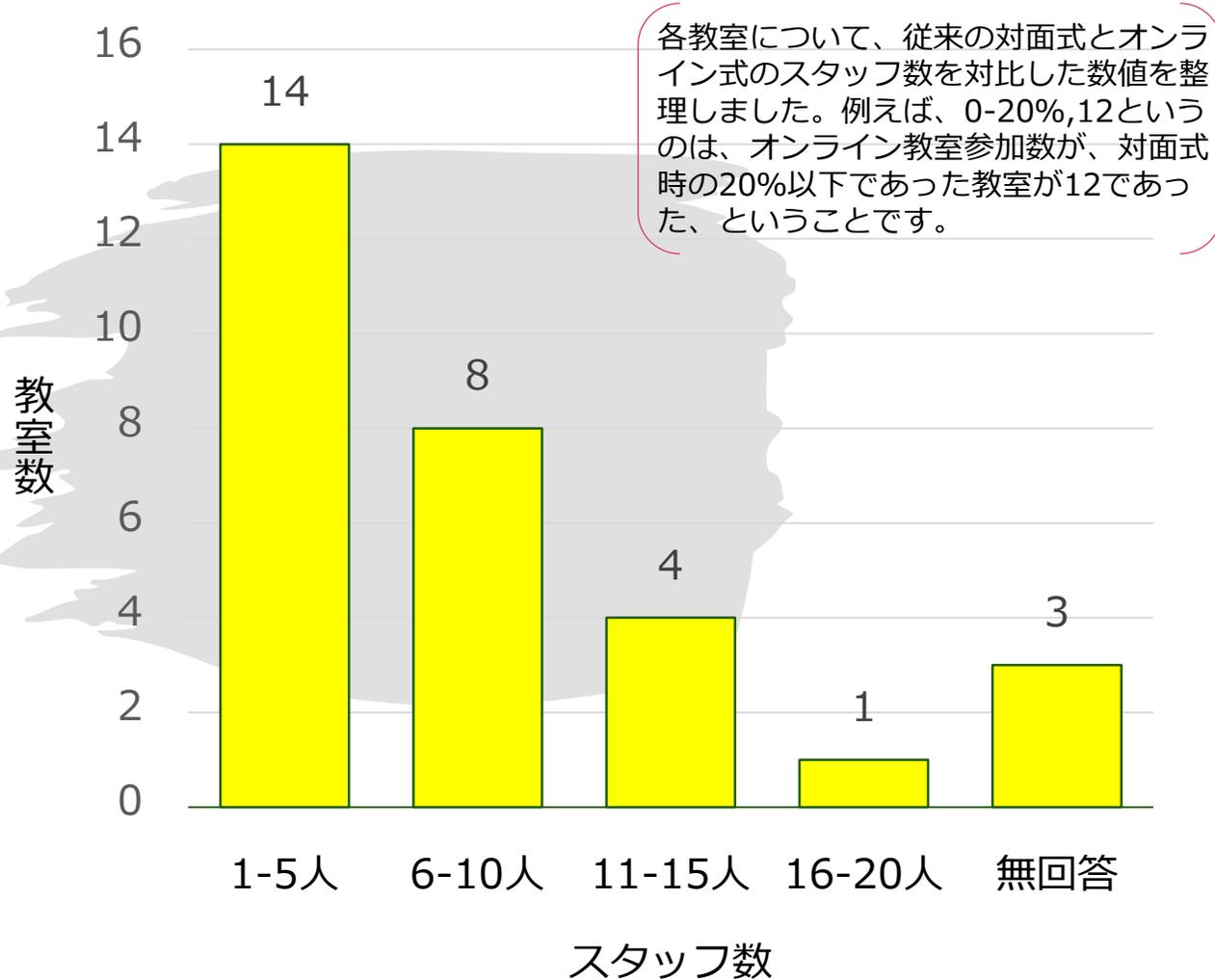
各教室にどの年齢層の学習者がいるのかをたずねただけなので、人数や割合は不明です。このグラフから、40代以下の社会人、そして学生を対象としている教室が多いことがわかります。

オンライン授業の内容（Q6）

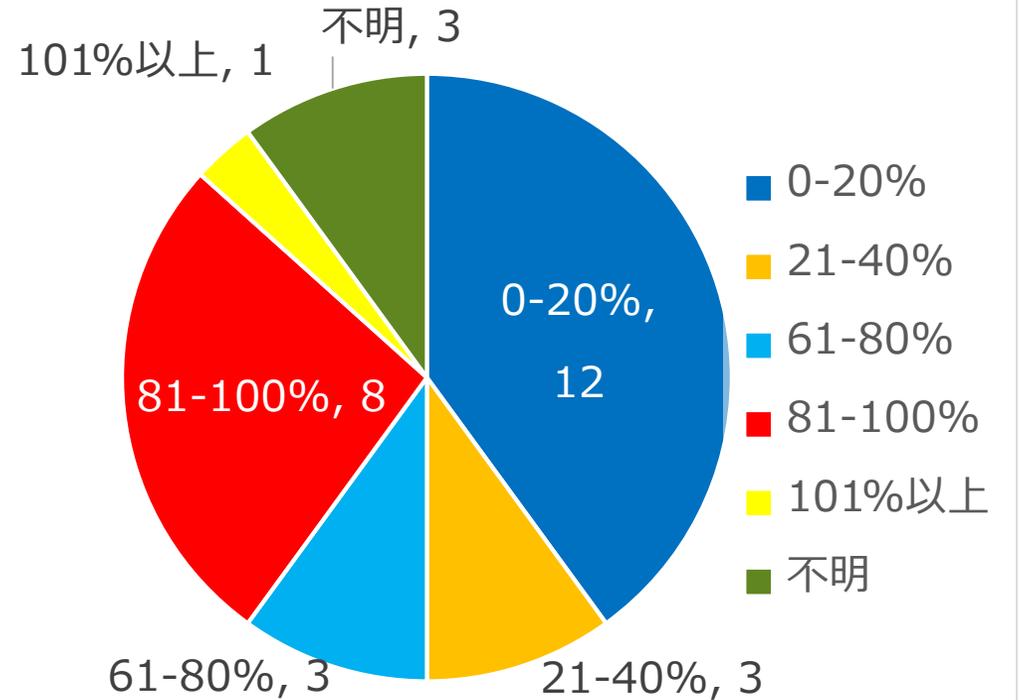


◆◆ オンライン授業に対応しているスタッフ数（Q7） ◆◆

オンライン授業参加スタッフ数(Q7)



オンライン対応スタッフの割合

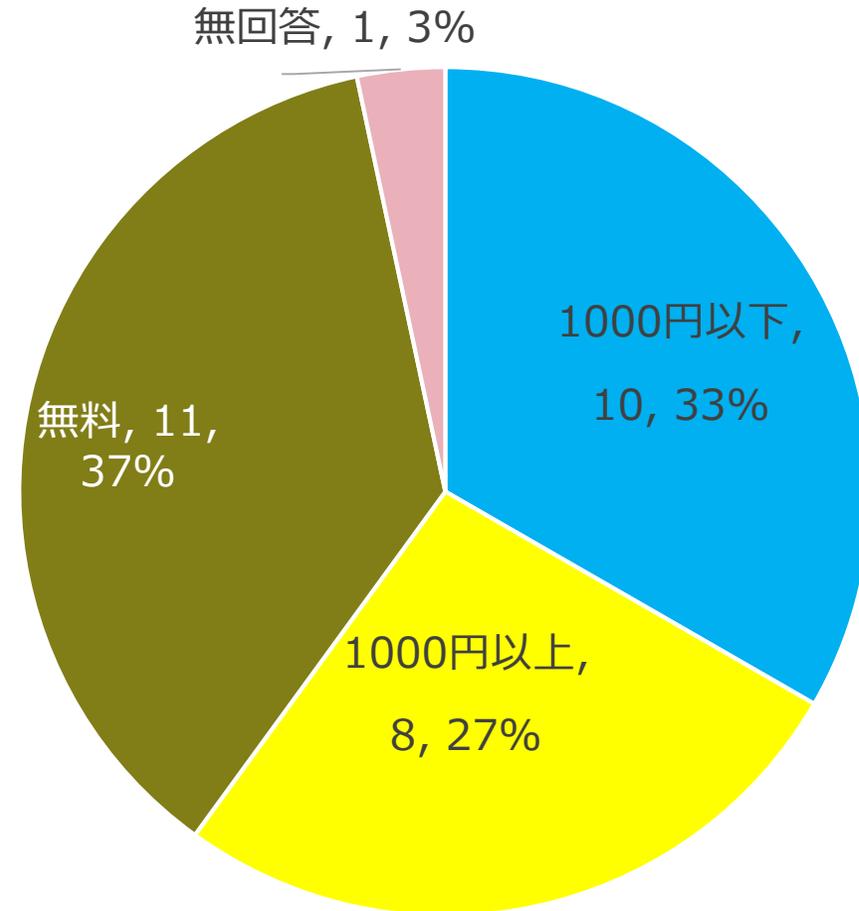


オンライン時のスタッフが、対面式時の4割以下の教室がちょうど半分である一方、ほとんど同数の教室は3割となっています。

◆◆ オンライン授業実施教室の年間受講料（Q8） ◆◆

オンライン授業実施教室の年間受講料

- ◆ 何らかの形で受講料を徴収している教室は、18教室(60%)でした。
- ◆ 有料の教室でも、国際交流協会費、テキスト代などとしている教室が多く、今のところ、特にオンライン費用として徴収している教室はありませんでした。
- ※ 受講料の名目や徴収の仕方が月ごとなど様々なので、事務局で年あたりの金額に換算させていただきました。

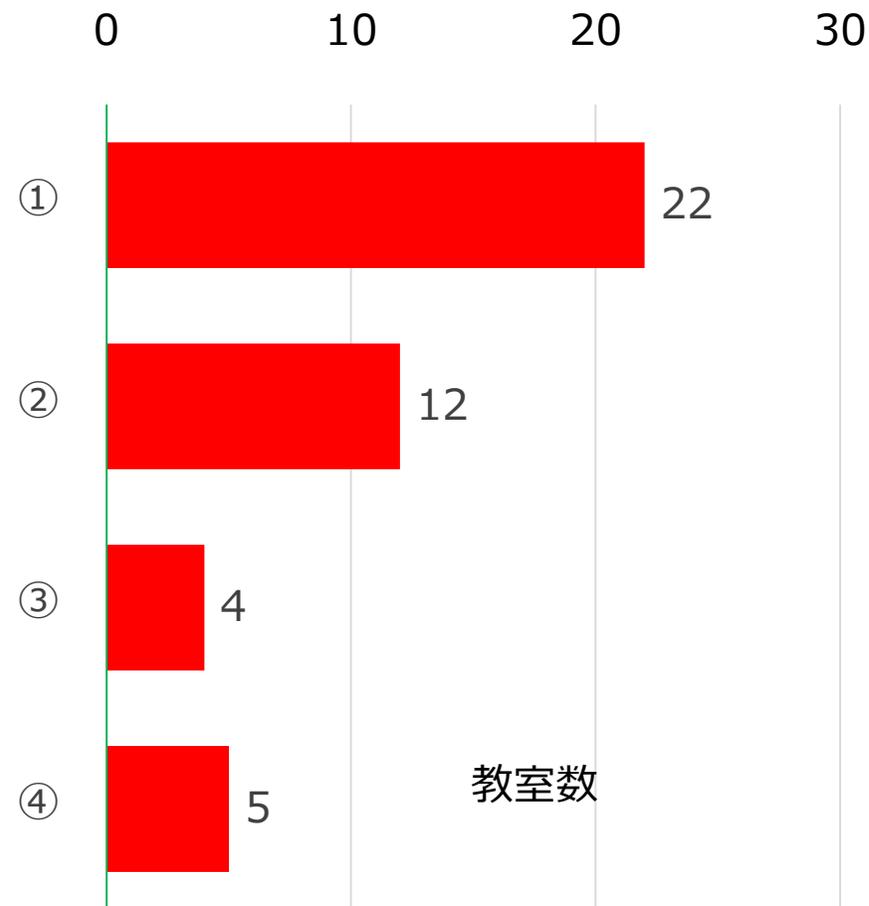


◆◆ オンライン授業を始めた理由 (Q9) ◆◆

- ① コロナ感染拡大の時期でも、日本語学習機会を作りたい
- ② 従来の受講者をフォローするため（従来の受講者限定）
- ③ 従来の受講者などからの要望（受講者は、広く受け）
- ④ その他、無回答

- 対面の教室に定員制限が設けられたため、利用人数を減らしたかった
- 学校が休み中、日本語を話す機会が少なくなると感じたから
- 大学では、実験を伴う授業のほかは全ての授業がオンラインとなり、学生はもちろん部外者の入構が出来ないため（複数回答）

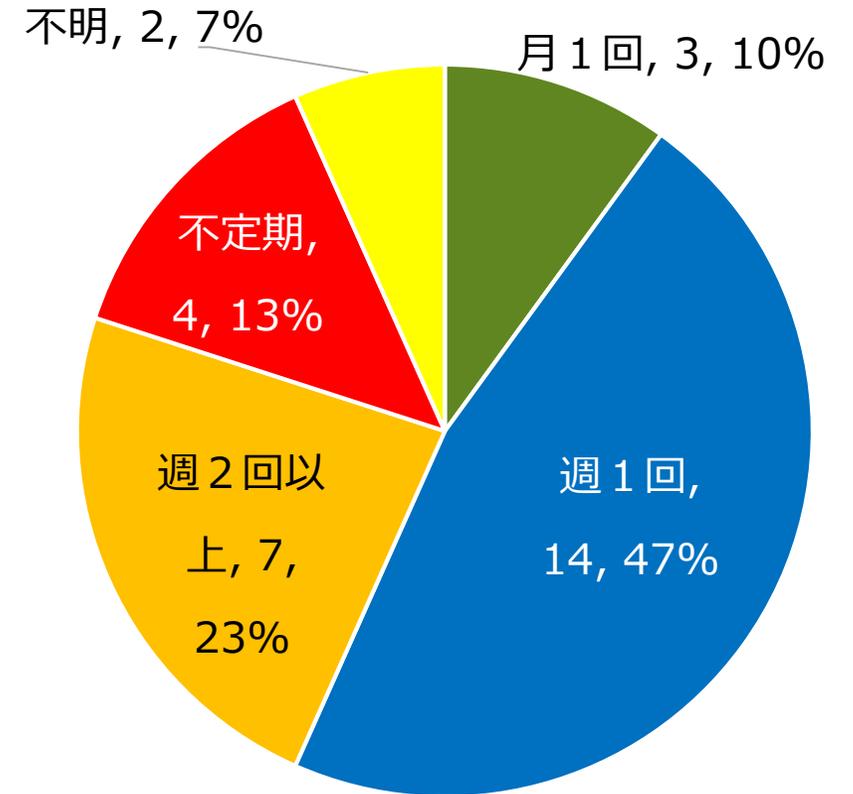
最も多かった回答は、①コロナ感染拡大の時期でも、日本語学習機会を作りたいというものでした。
全体として、学習者のために、何とか支援を続けたいと努力を続ける姿が見受けられました。



◆◆ オンライン授業の実施頻度(Q10) ・ 授業時間 (Q11) ◆◆

- ◆ オンライン授業の実施は、週1回が最も多く、14教室約47%でした。
- ◆ 週2回以上実施している教室は、7教室約23%を占めています。最多は、週6回でした。
- ◆ 授業時間は、60分前後と90分前後が多く、合わせて19教室で、全体のほぼ3分の2となります。

オンライン教室実施頻度(Q9)

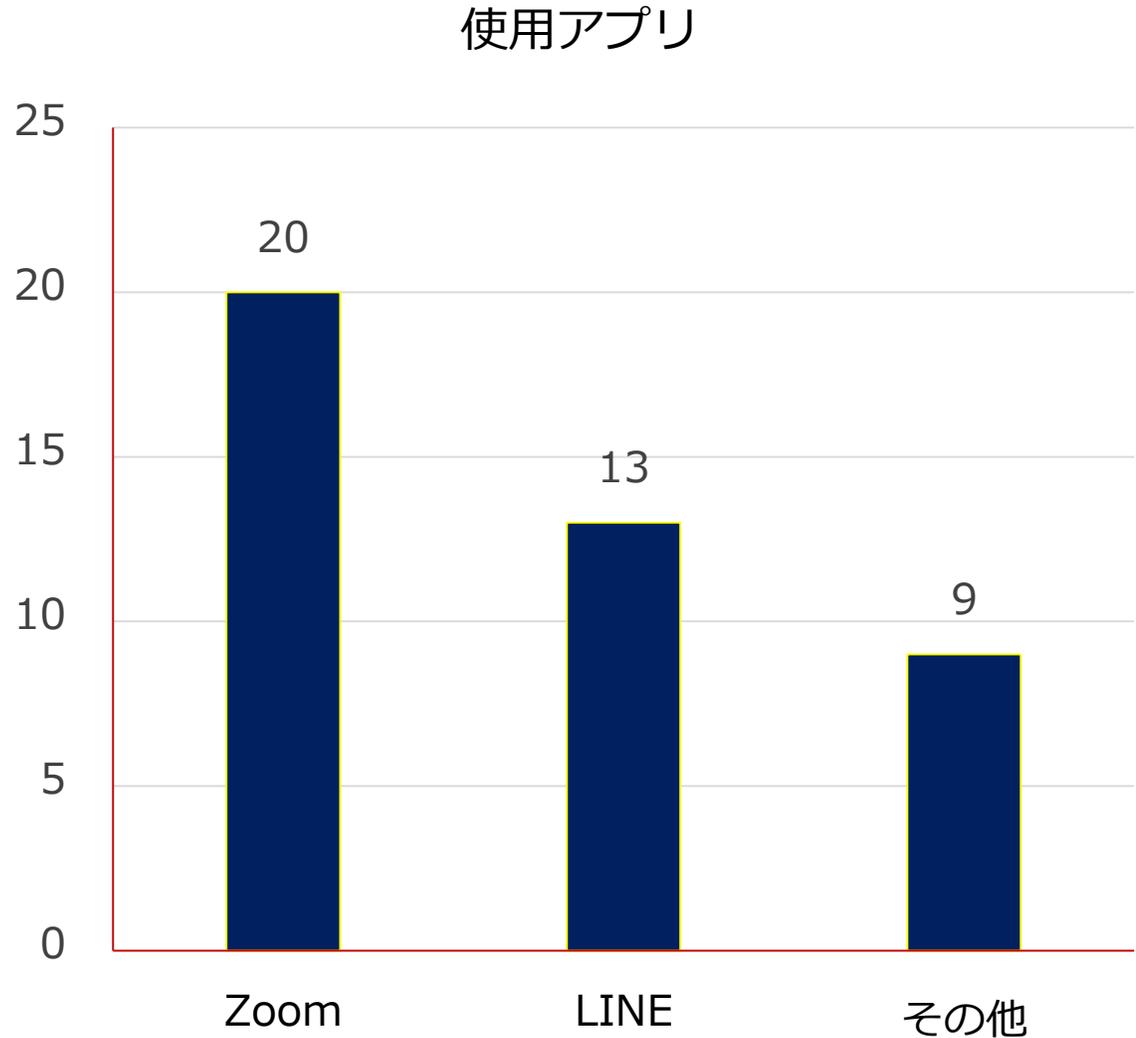


授業時間(Q11)



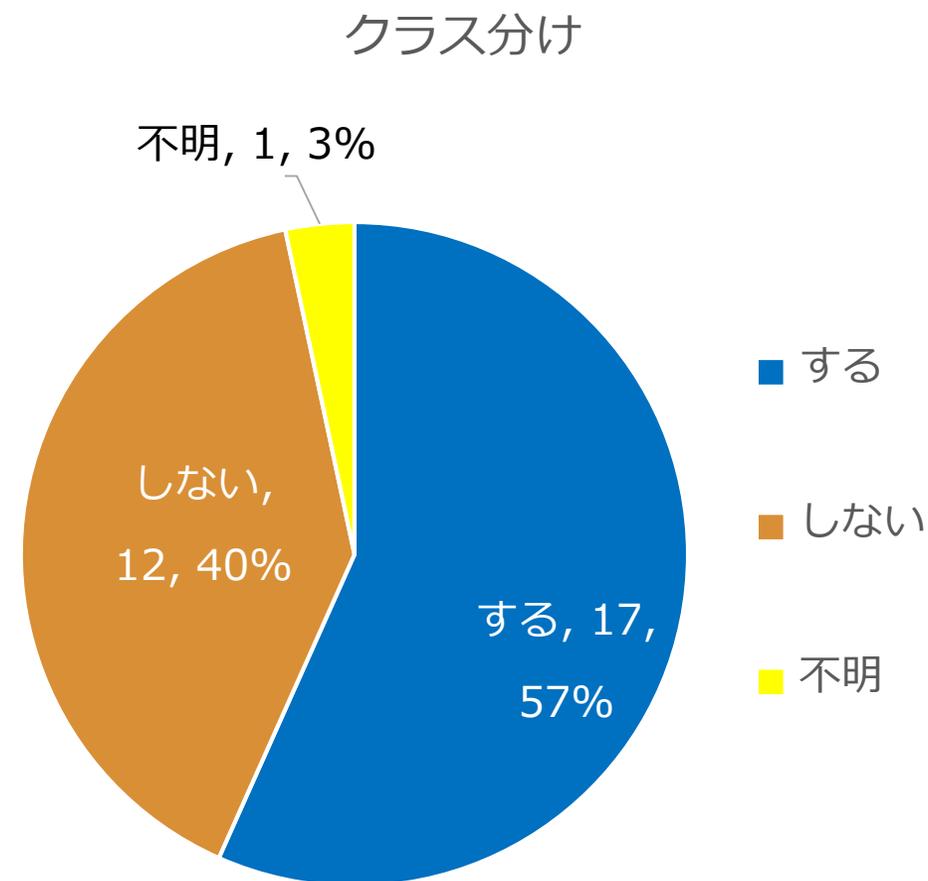
◆◆ オンライン授業で使用しているアプリ (Q12) ◆◆

- ◆一つの教室で複数のアプリを使っているケースもあります。
- ◆一番多いのはZoom、その次がLINEです。
- ◆その他のアプリを使用している教室も9あり、その内訳は、
Facebook Messenger DingTalk
GoogleMeet Skype Discord です。

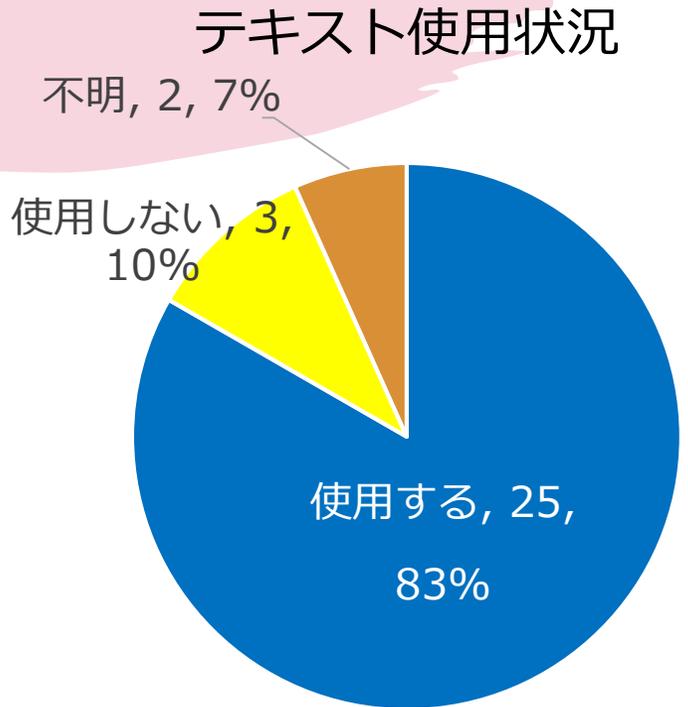


◆◆ オンライン授業でのクラス分け (Q13) ◆◆

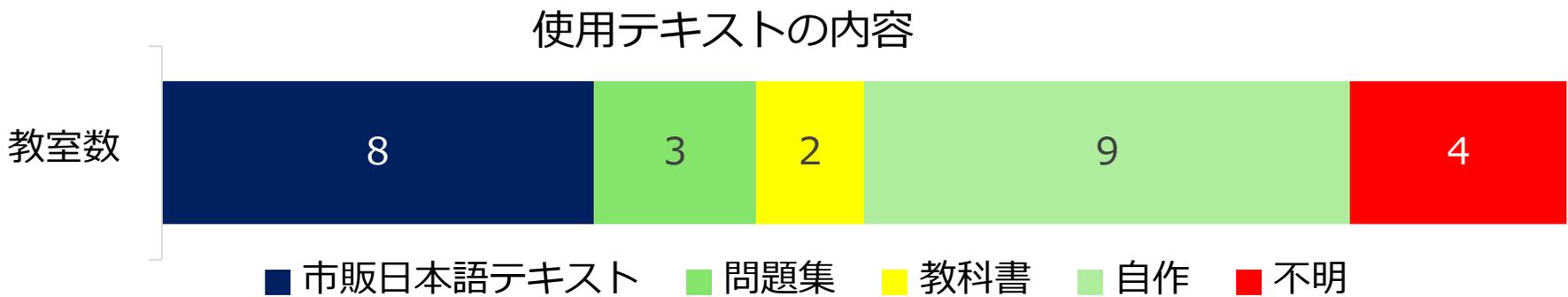
- クラス分けをするとの回答は17教室で、全体の約57%となっています。
- クラス分けの内容は、大部分（14教室）がレベル別で、会話、文法などの学習の目的別、企業や中学生などの所属別があります。
- また、それらを併用している教室もあります。



◆◆ オンライン授業でのテキスト使用 (Q14) ◆◆



- 25教室（83%）が、テキストを使っていると回答しています。
- 使用していないと答えた内の2教室は、会話中心の授業をしており、1教室は、子どもの教室のため宿題をみているとのことでした。
- テキストの内容は、市販の日本語テキスト、漢字や受験対策の問題集、学校の教科書、自作のテキストなどです。
- 会話型の場合は、新聞記事、画像などを利用した自作のテキスト（資料）を利用されている教室もあります。

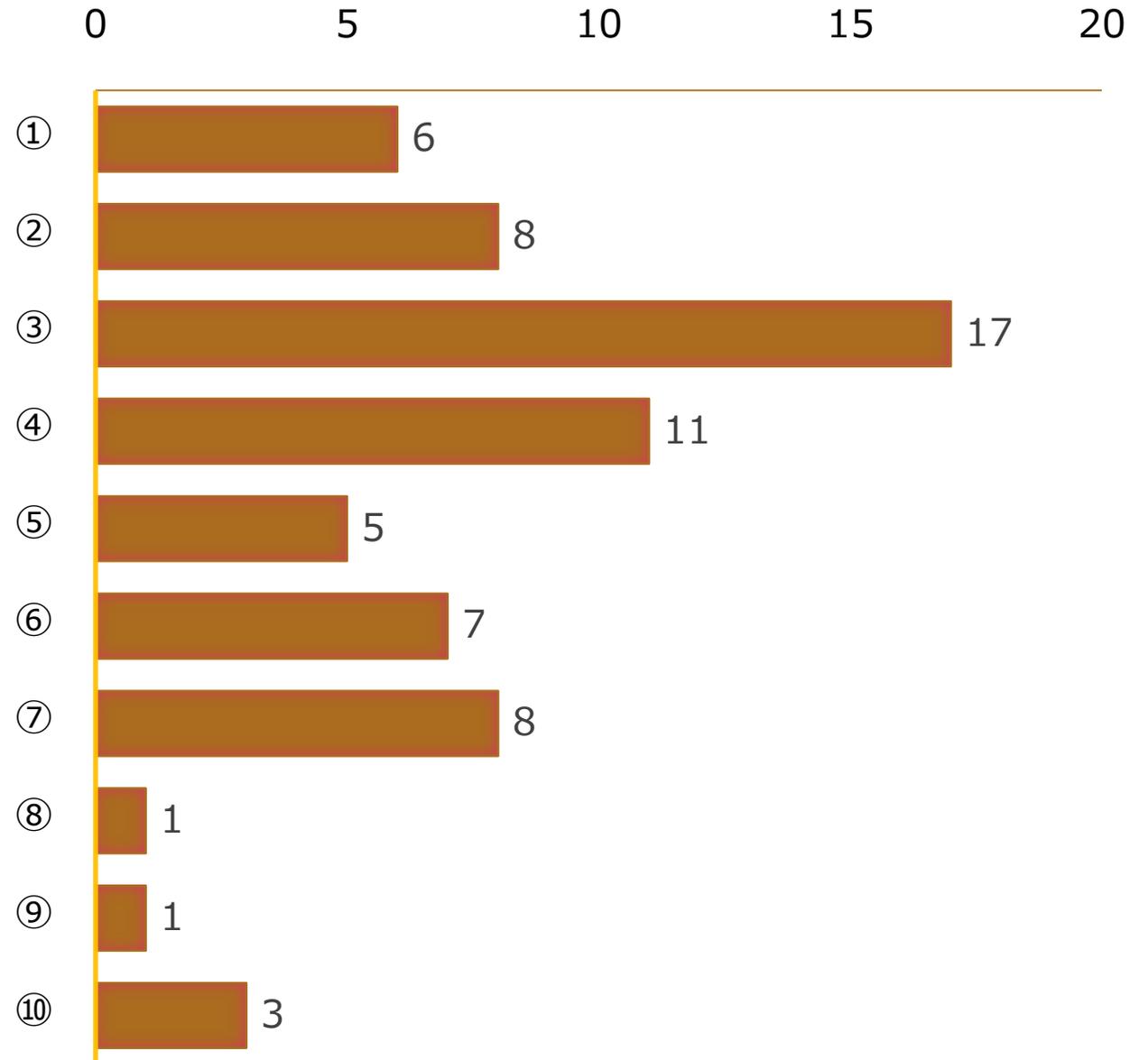


◆◆ オンライン授業で苦勞していること (Q15) ◆◆

- ① PC等の機器の確保
- ② 教室側の高速インターネット環境の整備
- ③ 対面式との教え方の違い
- ④ ソフトの選定と操作の習熟
- ⑤ 受講者への説明・納得
- ⑥ スタッフの負担が対面式より非常に大きい
- ⑦ 対応できるスタッフが少ない
- ⑧ 受講者の募集・確保
- ⑨ 教育の質全般
- ⑩ その他

「著作権が厳しい。」「効果的なアプリの利用法やオンライン授業の運営について、指導してくれる人も相談する人もない」など

実施している教室での苦勞については、対面式との教え方の違いが最も多い回答でした。これまでの方法とのさまざまな違いに直面し、それを克服していくことに難しさを感じているのではないのでしょうか。



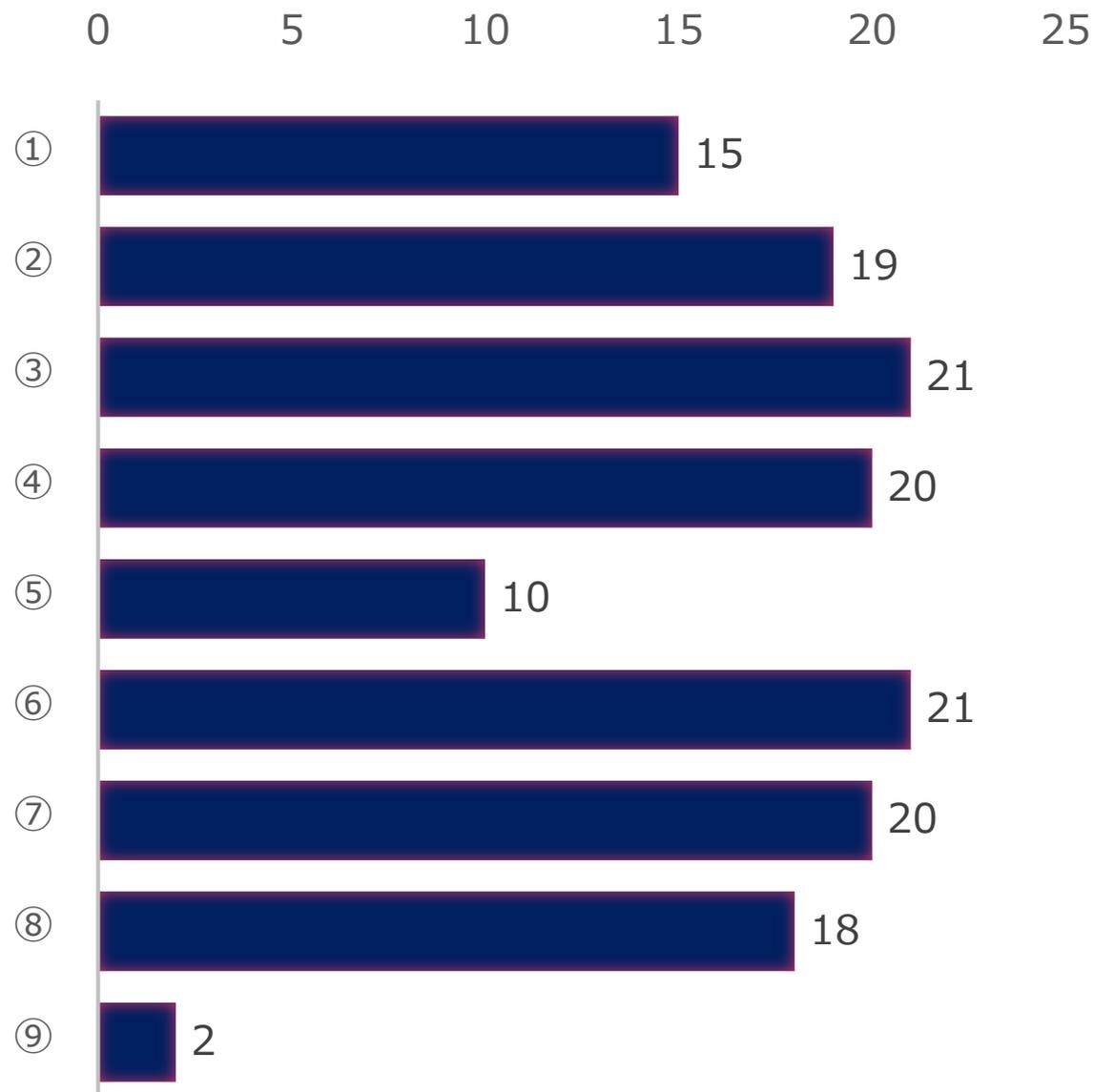
◆◆ オンライン授業を実施しない理由 (Q16) ◆◆

- ① PC等の機器が確保できない
- ② 教室側の高速インターネット環境が整備できない
- ③ オンラインでの教え方がわからない
- ④ ソフトの選定や操作に自信がない
- ⑤ 受講者が対応できない
- ⑥ スタッフの負担が増える
- ⑦ 対応できるスタッフがない
- ⑧ 受講者の要望がない
- ⑨ その他

小学生の学習支援で一人一人の教科の内容が違う
残業、休日出勤等が多い受講者が対象のため

環境整備 (①②)、支援者側 (③④⑥⑦)、学習者側 (⑤⑧⑨)の問題について、さまざまな理由があげられていました。

実施にはそれぞれの問題に対処しなければならない難しさがあるのではないのでしょうか



1 実施上の諸問題

- ① PC、WiFi環境を各ボランティアの自宅に整備した場合の費用負担方策（運営面）
- ② オンラインと対面式教室を並行開催したいがボランティアが不足（人的リソース）
- ③ 学習者の連絡先が未確認のため、学習者側の要望の有無が不明（学習者側ニーズ）
- ④ 教材の著作権について、ボランティアおよびオンラインクラスについても学校法人の対面レッスン同様の扱いにしてほしい（著作権対応）

2 ノウハウ・知識の共有方策

- ① オンライン授業を確立している教室の見学（成功事例からの学び）
- ② オンライン授業実施についての研修会の開催（講座等実施）
- ③ 先進事例のノウハウの紹介（アイデア）

3 事例の紹介

① 令和2年3月から教室が一旦中止され、7月にオンラインで1人のみ授業を行い、もう1回は屋外で距離をおいて近況報告などをした。

9月からは対面でも参加できるメンバーで、感染対策をしっかりと行った上で再開した。不安がなくなったわけではないが、学習者さんが嬉しそうで、それを見られたスタッフも、やってよかったという感想であった。

日本語を勉強する場としてではなく、つながりというものも大事なのではないか。

② オンラインは、4月、5月の会場が使用できない時期だけに主に実施(5月は延べ90人、スタッフ延べ47人)した。急な対応だったため、学習者の使用している、LINE、ウィチャット、メッセージャーなどを使用し、それぞれのボランティアが対応して実施した。

4 オンライン授業の意義と今後についての意見

当初は、対面学習の一時的な代替手段としてのオンラインだったため、対面学習に比べてのマイナス面を如何に補うかばかりが課題であった。

しかし、対面学習に近づくための改善を繰り返している内に、近づくどころか、オンラインの方が遙かに優る面が数多く見えてきたし、今後も相当な可能性を感じてる。

オンラインを対面の一時的な代替と考えたり、対面と比較して優劣をつけたりせず、其々の特色を活かした全く別の学習方法として活かしていけたらいいのではないかと感じている。

- このアンケートによる自由記述では、人材不足に苦慮している教室が多いことがわかりました。
- 積極的にオンライン授業に取り組んでいる教室としない教室の違いの理由は様々ですが、双方に共通している事といえば、人材と教材不足ではないでしょうか（於10月時点）。
- 特に、未実施教室においては、ほとんど人材不足が理由です。逆に言えば人材不足が改善され、「環境、オンラインの教授法」が整えば、オンライン授業を実施する教室も増加すると推測できます。
- オンライン授業に消極的な教室でも、活用方法を示せば、積極的になれるボランティアも増え、オンライン教室が、増える可能性もあると考えられます。

◆◆ 終わりに ◆◆

- ◆ 2019年冬頃から世界中に広まった新型コロナウイルス感染症は、現在もなお強い感染力を持ち、社会生活全般に大きな影響を与え続けています。
- ◆ 対面式の授業を基本としていた日本語教室においても、様々な対策が必要とされています。
- ◆ このアンケート調査は、オンライン授業の取組みの状況、取組みにおける苦労や工夫などについて、日本語教室でオンラインによる授業の取組みが広まりつつあった、2020年9月に実施したものです。
- ◆ お忙しい中、また、新型コロナウイルス感染拡大という非常に厳しい状況の下、御協力いただきました日本語教室の関係者の皆様には、改めて心から感謝いたします。
- ◆ 今なお厳しい状況が続く中、この調査が少しでも皆様方のお役に立つことができますことを、心から願っております。

令和3年5月10日

公益財団法人愛知県国際交流協会・日本語教育リソースボランティア一同